

麦づくり情報(No.1)



1. 麦作況情報田の生育概況(1月20日調査)

場所	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈葉数 (L)	概況
牛津	サチホゴールド 4条播き	本年値	12/7	9.2 (133)	134 (69)	1.6 (-0.8)	苗立数は平年よりやや多い。 草丈は平年より高い。 茎数は平年より少ない。 葉令からみた生育は平年に比べ やや遅い。
		平年値	12/10	6.9	193	2.4	
大和	シロガネコムギ 6条播き	本年値	11/20	8.5 (101)	469 (214)	4.8 (+1.2)	苗立数は平年より多い。 草丈は平年と同等。 茎数は平年より多い。 葉令からみた生育は平年に比べ 早い。
		平年値	11/29	8.4	219	3.6	

参考 農試作況データ(1月20日調査)

品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈葉数 (L)	概況
サチホゴールド	本年値	12/10	6.6 (73)	155 (86)	1.4 (-1.0)	草丈は平年より低い。 茎数は平年より少ない。 葉令からみた生育は平年に比べ 遅い。
	平年値	12/10	9.0	209	2.4	
シロガネコムギ	本年値	11/19	12.9 (91)	350 (75)	4.3 (-0.4)	草丈は平年よりやや低い。 茎数は平年より少ない。 葉令からみた生育は平年に比べ やや遅い。
	平年値	11/20	14.1	469	4.7	

気象概況

平均気温は、一時的な冷え込みはあるものの、播種期の11月中旬から概ね平年並みで推移している。降水量は、11月は周期的な降雨があり平年の113%と平年より多かったが、12月～1月4半旬は12月の4半旬にまとまった降雨があったものの平年の49%と少雨傾向で推移した。11月～1月4半旬までの日照時間は平年の114%と多照であった。

生育概況

播種作業は乾いている圃場が多く、順調に行われた。11月中旬に播種された小麦は、播種後、天候に恵まれ順調な出芽・生育となっており、現在4～5葉期となっている。分けつの発生も平年より旺盛で、平年より成育は進んでいる。大麦の播種作業は11月下旬より始まり、12月上旬がピークとなった。12月上旬播種の大麦は、12月の少雨・乾燥により出芽がやや遅れており、現在1～2葉期と生育は平年よりやや遅れている。

病害虫発生状況

- ◆シロトビムシ…播種後小麦の圃場でシロトビムシの食害に見舞われた圃場が多く見られる。
- ◆網斑病…大麦の一部圃場で網斑病の発生が確認されている。

2. 今後の管理

○追肥

- ・地域の暦に応じて、基準量を施用する。
- ・施用時期の目安は、本葉3～4葉期
- ・12月上旬播種の大麦は、施用時期が近づいているため、圃場を確認する。
- ・肥効を高めるため、施用後に土入れを実施する。

○麦踏み・土入れ

＜麦踏み＞・3葉期以降から始める。早期に行うと断根や土壌の硬化等による初期生育を阻害することがあるため、特に出芽が遅れた圃場では生育を確認して実施する。また、土壌が湿潤な状態で行うと、土が締まることで通気性が低下し、根の活性を阻害するため、必ず土壌が乾燥した状態で行う。

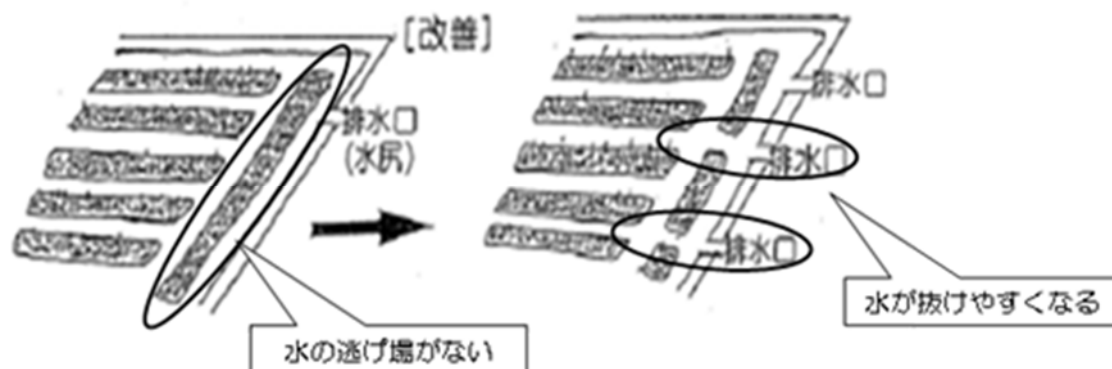
- ・麦踏みの最終時期は節間伸長開始時期～茎立期まで（草丈20～25cm程度）

＜土入れ＞・本葉5～6葉期から、雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に実施する。

- ・出芽遅れなどにより生育が遅れている圃場は、生育が進んでから行う。
- ・土の量は、生育初期は少なめにし、生育が進むにつれて量を増していく。
- ・肥効を高めるため、追肥や穂肥後に行うと効果的である。

○排水対策

生育期間中の湿害が根の張りに大きく影響する。また、今後は降雨量が増えることが予測されるため、速やかに排水できるよう、降雨が多くなる前に、溝を排水口まで通すなど整備し、圃場内に滞水しないように、管理する。



○病害虫防除

◆網斑病

網斑病の発生が確認されている圃場では、症状の進展具合を確認し適期防除を行う。

農薬名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量 (/10a)	使用時期	総使用 回数	使用方法
チルト乳剤 25	網斑病	1000倍	60～150L	収穫21日前まで	1回	散布

○雑草対策

一部の圃場で雑草の発生が目立っているため、除草剤の処理時期を逸しないように早めに対処する。

【注意事項】

麦踏み：麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

土入れ：除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 双メテポウ 加ノグサ	5~10g	100L	は種後～節間伸長前 (双メテポウ5葉期まで) (加ノグサ1~3葉期まで) ※小麦のみ は種後～穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで	1回以内	・加ノグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する
アクチノール乳剤	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml	70~100L	穂ばらみ期まで (雑草生育初期) (広葉発生揃~6葉期、ヤエムグラ4葉期まで)	2回以内	・ヤエムグラ、カラスノエンドウ、タデ類に効果が高い
エコパートフロアブル※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50~100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2~4葉期) (ヤエムグラ2~6節期) ただし収穫45日前まで	2回以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラに効果が高い
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml	70~100L	生育期(雑草3~6葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	

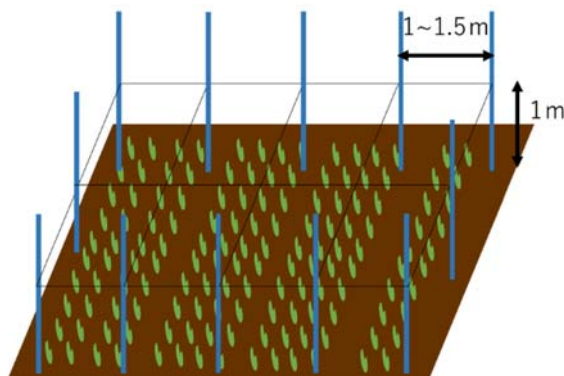
※1 以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- ・重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。
- ・効果、薬害に問題がないことが確認されていない薬剤との同時施用や7日以内の近接散布は避ける

○鳥獣害対策

・カラス

黒のワイヤ線としなりやすい支柱を用いて、カラスの翼を広げた時の長さ(1~1.5m)の間隔で約1mの高さに設置することにより、飛来するカラスは嫌がる。ただし、歩いてくるカラス、ハトやカモには効果がない。

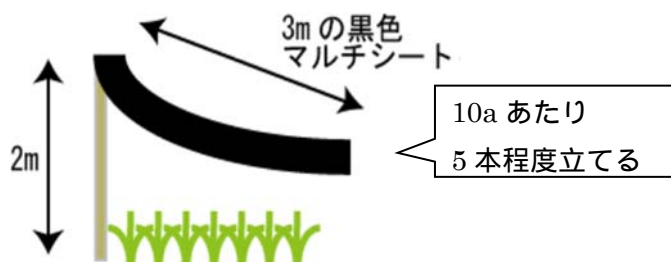


・カモ

本年はカモによる食害が各地で多く見られる。特にクリーク沿いにある圃場など食害に遭いやすい圃場では、のぼりを立てる等の対策を実施する。

【のぼりの設置について】

支柱に黒色マルチを吊したものを設置する。カモは水路から侵入することが多いため、圃場の水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。

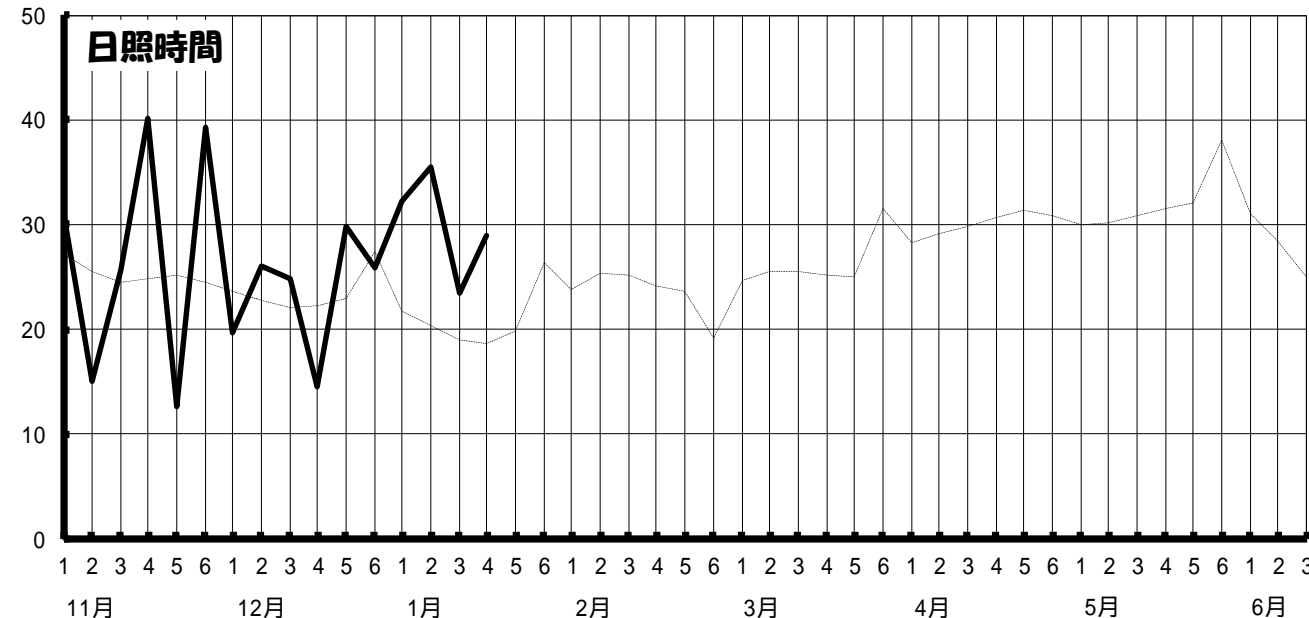
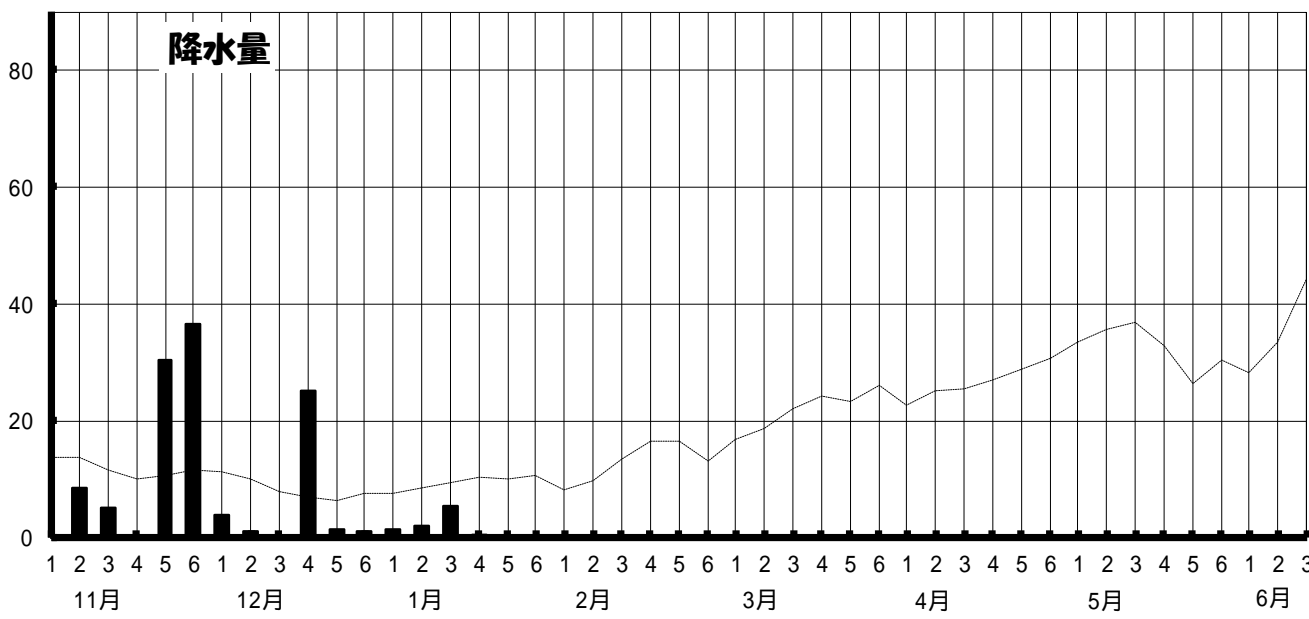
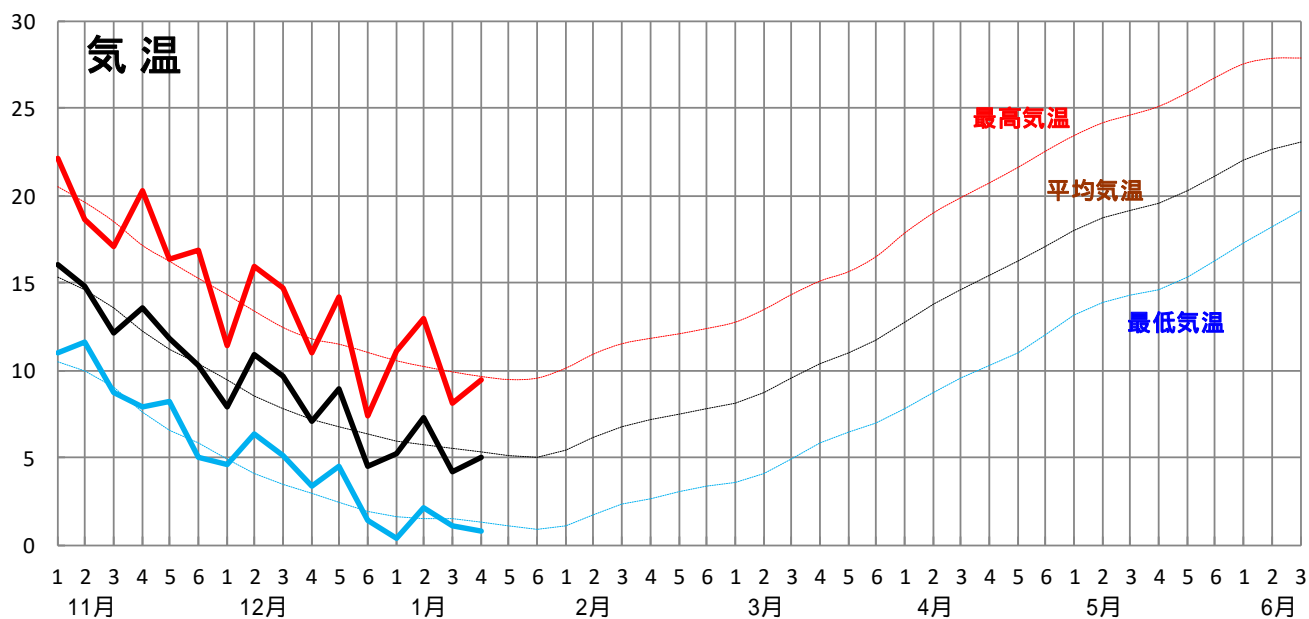


カモによる食害
バリカンで剪定したように見える

令和3年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値